



異常なる夏 over ?



ようやく涼陰が立ってきましたが、いやー、今年の夏は暑かったですねー。酷く応えたのは歳のせいだけでなく、やはり地球が何か変動期に入りつつある事を感じたのかも知れません。上の写真は http://maros-images.sakura.ne.jp/sd1/today_037.jpg にあったものを無断で若干加工して、入道雲から大都会の局所に水が大量に落下している状態を見やすくしたものです。熱帯のスコールですね。天変地異が起こると人間の存在なんて無力で、なるようにしかならない事は歴史が証明しています。

9月の最盛期には10日間で3人の知り合いが鬼界に入りました。一人は小学校の同級生、一人は学生の時にお世話になった佐藤進元教授です。これから鬼界も少し騒がしくなるかも知れません。

S41 卒 久保愛三

【訃報】 佐藤進 名誉教授

佐藤進先生は、9月10日逝去された。享年81歳。

先生は、1930年に新潟県で生まれ、大阪で育ち、1954年京都大学工学部鉱山学科を卒業、1961年に会田俊夫教授とともに精密工学科精密機械要素講座に移り、1976年に振動工学講座教授に就任された。1994年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、1994年4月から同9年11月まで学校法人金蘭会学園理事長を務められた。



先生は歯車などの振動工学に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与された。また、社会科学の分野においても、多大の貢献をされた。『科学技術とは何か』、『価値の選択』、『大学の生き残り戦略』等、多数の著書で、現在文明の問題点を解明し、その解決法を提案されている。また、『原発の安全上欠陥 付・スリーマイル島事故の考察』（第三書館、1978年）などにみられるように、原子力発電の危険性について警鐘をならし続けられた。

女性エンジニア交流会@名古屋

2008 卒 鯨岡絵理 （新日鉄住金エンジニアリング）

2004年、京都大学工学部物理工学科へ入学した約250名の学生のうち、女性は6名でした。毎年女子学生は消費税以下の割合だ、との先輩の言葉に妙に納得した記憶があります。もちろん、その割合は社会に出ても大きな変化はありません。先日より、日本機械学会 Ladies' Association of JSME (LAJ) の委員を務めており、社外の女性技術者との交流の機会を得ましたが、一般的な仕事や研究の話が驚くほど新鮮です。社内外含めて人と関わる事の多い職の為、内に籠っている意識は全くありませんでしたが、母数の少ない存在だけに、放っておくと「女性技術者」に関する思考は凝り固まってしまうようです。

考えてみれば、学生時代より様々な京機会のイベントに顔を出して参りましたが、OGの方々にお会いしたことがほとんどありません。同窓の繋がりをもとに、互いに視野を拡げられる良いネットワークを構築できたら幸いです。

10月26日（金）に名古屋駅周辺にて機械学会主催の女性エンジニア交流会が開催されます。毎年数名ずつ存在する京機会OGの皆様、および現役機械系女子大生の皆様、宜しければ女性研究者・技術者（を目指す学生含む）の気軽なおしゃべりを楽しみにいらっしゃいませんか？ **締切が10月6日（土）と迫っております。** 巻末の資料をご参照の上、お早目のお申込みをお勧めいたします。

機械技術者教育問題

文責 S41 卒 久保愛三（公益財団法人 応用科学研究所）

京機短信の前報のKARTの記事にも関連する内容なのですが、知り合いの両角岳彦さんが、日本企業の「大人」だけが知らない「学生フォーミュラ」に集う若者たちの実力という記事を、2012.09.21（金）のJBpress 技術立国・日本論に書いています。

以下に要点をピックアップしますので、是非とも原文を

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/36116> でお読み下さい。

欧州では地域の産業全体がバックアップ

近年、特に自動車産業を先導する立場を堅持しようとするヨーロッパを中心に、自動車技術者集団だけでなく産業全体が「Student Formula」活動に力を入れるようになってきたのは、その中で育つ新しい人材のポテンシャルの高さが実感されているからだ。

例えば今のイギリスとドイツの大会の上位には、ドイツのシュツットガルト大学、ミュンヘン工科大学（いずれもドイツ）、チャーマーズ工科大学（こちらはスウェーデン・イエテボリ）など世界的自動車メーカーの「お膝元」にあるチームの名前が並び、そこにデルフト工科大学（オランダの名門校。自動車工学関連でも実績、設備とも優れる）、オーストラリアの強豪校であるモナシュ大学、さらにはタリン応用科学大学（エストニア）といった面々が加わるという顔ぶれであって、それぞれに「技術を生み出す新しい頭脳」の育成に、大学だけでなく地域の産業全体が力を入れていることが浮き彫りになっている。

こうして日本の学生フォーミュラの「今」とそこに至る10年余を見渡すと、今年の京都工芸繊維大学チームの総合優勝は、ある意味で一つの曲がり角に来ていること、そしてその変曲点を学生たち自身が乗り越えようとしていることを示す、象徴的な事象なのだと思う。他の大学チームもこれで「論理的に考えて走らせる」ことの意味に気づくだろう。しかしどうしていいか、きっと迷う。教えられる「大人」が、彼らの身近にはなか



タイム、燃費ともにトップに立ったエンデュランス競技を走る京都工芸繊維大学チームのマシン

（大会の状況をライブ配信したUSTREAMの動画より）

なかないであろうからだ。それでもきっと、「自分たちなりの理屈を組んで、見た目の良いマシンを作る」ところでは終わらない若者たちが出てくる。彼らの頭脳はそのくらい柔軟であり、行動力もある。

学生のポテンシャルに気づいていない日本の企業

それにしても「日本の明日を担う若者たちがここから生まれる」という大前提をどこかに置き忘れたのか、と思えるような人士が散見されるのである。

だから「次世代の産業を支える人材」を生み出す場として、もともとのアメリカはもちろん、新興国で組み立てられる安価なクルマが氾濫することが確実な「明日」に向けて、産業全体の知的能力を高めることが生き残りの鍵を握ると考えるヨーロッパでも、自動車産業と教育研究機関が共同して力を入れるようになっているのである。それに比して、日本で同じ活動に飛び込んだ学生たちの環境はあまりに貧しい。それは活動の場、そして資金、大学そのものによる認知、企業からの支援といった日々の状況に始まり、リアルな技術や方法論に触れる機会、さらに競い合う場、そして大会の運営と内容にまで及ぶ。

その一方で、大会の現場を含めて優秀な学生と直に接触し、自社への就職を誘引する動きは、特に最近、様々に目にするようになってきた。ただそこに見出す若者の資質の高さを理解しているのは、技術開発の現場に立つ人々であり、人事担当、さらには企業の経営者、さらには大学や教育に関わる人々などの中では、まだまったく認知が進んでいない、というのもまた、学生フォーミュラ活動に関する日本の実情である。同じような事象は別の分野でも様々に起こっているに違いない、と思う。



同じような事象は別の分野でも様々に起こっているに違いない、と思う。

今の日本の教育も「学生フォーミュラ」を難しくしているもう1つ別の視点から今の日本の学生フォーミュラ活動を見わたすなら、最近の教育(小・中・高等学校)の中で「柔らかく」育てられてきた若者たちが集まって、これだけシビアなものづくりプロジェクトを進めることもまた非常に難しい。これも内情が見えるほどに痛感される。

幼児期まで遡って「組織的活動」や「個人の責任」を植えつけ直す必要があ

るのではないかと悩むファカルティアドバイザー（FA：大学側の代表者となる教員）は1人、2人ではない。しかし逆に、挫折した学生の親族が大学側に苦情を申し立てるとのことまで、今の日本の教育現場では起こってくるのだという。大学に進んでまで「モンスターペアレンツ」が続くのか、と驚くのは私が今の子育てを知らないからなのか。

しかし、少なくとも私自身は、若者諸君のエネルギーをまさに「肌で感じる」日々を過ごしている。だから、私が知る限りの「クルマって何だろう？」は伝えてあげたいし、お節介は承知の上で、そのために動き回っている。そしてこの活動が、その1年の集大成たる大会が、もっと多くの人々に知られ、感動を共有してもらえる状況を育ててゆきたいと思っているのである。



(おわり)

【参考】全日本学生フォーミュラ選手権 総合優秀賞

<http://www.jsae.or.jp/formula/jp/10th/result.html>

1 位	京都工芸繊維大学	2 位	大阪大学	3 位	同志社大学
4 位	名古屋大学	5 位	茨城大学	6 位	名城大学

京都大学学生フォーミュラ KART の最終報告書は、京機会HPからご覧戴けます。

<http://keikikai.jp/links/kart2012.pdf>

九州支部総会・見学会

世界に誇る新幹線の安全の秘密に迫る！新幹線整備基地見学へのお誘い

日時：平成24年10月27日(土) (13時45分 博多南駅集合)

場所：西日本旅客鉄道㈱ 新幹線管理本部 博多総合車両所

世界が認めるCOOL JAPANの代表格「新幹線」。その安全の根幹を支えるのが新幹線整備基地です。今回、西日本旅客鉄道㈱の田仲文郎福岡支社長 (S55) のご厚意により、待望の見学会が実現しました。

安全な新幹線を作ることにエベレストに登るような苦労があるなら、その新幹線を整備し常に安全に走らせ続けることには、エベレストに住み続けるような苦労があるに違いありません。現場見学会に合わせ、田仲様より博多総合車両所長として最前線で指揮をとら



れた経験をもとに現場の苦労話もお聞かせ頂けます。技術者魂旺盛な皆様にとって、絶好の機会です。

ご家族もお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。見学後九州支部総会を開催します。 夕刻、博多へ移動後、九州支部でしか味わえない

いかの活造りと絶品の焼酎 で懇親会を実施予定です。

申込は京機会ホームページ <http://keikikai.jp/shibu/kyusyu/gyoji.html> からお願い致します。

翌日(10/28)： 九州の鉄道の歴史と関門海峡探訪ツアー

鉄道マニアのあなた。歴史好き、食道楽のあなた。秋の関門海峡で楽しい一日を過ごしませんか！

日時：平成24年10月28日(日) (9時門司港駅集合)

経路：→九州鉄道記念館→トロッコ列車体験→門司港レトロ→関門海峡(渡船)
下関へ→唐戸市場(海鮮 食い倒れ体験)→壇ノ浦 他 下関見学

費用：実費

★関東異業種交流会（11/9）

<http://keikikai.jp/shibu/kantou/igyousyu.html>

13:30 東急多摩川線下丸子駅前集合

■プログラム

14:00 ～ 会社紹介映像上映及びキヤノンギャラリー見学

キヤノンギャラリーは会社概要、歴史、製品、技術などについて紹介する施設で、歴代のカメラ等の製品や技術紹介を多数展示。

15:00 ～ すばる望遠鏡の紹介

ハワイ島マウナケア山頂に設置されている大型望遠鏡「すばる」内の主焦点カメラに搭載されているキヤノンのレンズユニットに関する、光学・精密技術等のご紹介。

16:00 ～ 綴プロジェクト（文化財未来継承プロジェクト）の紹介

屏風や襖絵等日本の貴重な文化財の撮影・画像処理・出力を行い高精細複製品を制作し社会に貢献するプロジェクト。その実現のための技術解説、およびビデオによる紹介。

17:30 ～ 懇親会（本社棟食堂にて）

■参加費（懇親会費） 4,000円

★関東写真同好会（11/17）の案内ファイルです。

http://keikikai.jp/shibu/kantou/katudou_ichiran/s-shashin.html

集合：11月17日（土）10時30分

浜離宮大手門橋入り口

（JR新橋駅から徒歩800m）

- コース
- ・ 浜離宮で東京港を一望する海と公園や紅葉の写真を撮りながら散策
 - ・ お昼過ぎに新橋あたりで食事
 - ・ 健脚の方は引き続き皇居東御苑に向かいましょう。

10/6 関西支部産学懇話会

<http://keikikai.jp/shibu/kansai/sangaku.html>

10/6 関東支部MOTセミナー

http://keikikai.jp/salon/kanto/salon_kanto2012.html

10/13 関西支部京機カフェ大阪あそ歩（10/6締切）

http://keikikai.jp/shibu/kansai/cafe/cafe_osaka.html

新規行事としては、

★10/20 関西支部京機カフェKMCイノベーション講演会（10/15締切）

http://keikikai.jp/shibu/kansai/cafe/cafe_kmc.html

11/29 関西支部京機カフェ京機ビジネス倶楽部

http://keikikai.jp/shibu/kansai/cafe/cafe_keiei.html



平成24年度京機会秋季大会・総会開催のご案内

本大会を下記により開催いたしますので、出席下さいますようご案内申し上げます。ご家族の参加も歓迎いたします。

日 時：平成24年12月 8日(土) 11:00～19:30

会 場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール、国際交流ホール 工学部物理系校舎

行 事：

1. <特別企画> 研究室ポスター展示 11:00～14:00 (会場：工学部物理系校舎)

桂キャンパス移転を前に、一昨年好評いただきました研究室ポスター展をアンコール開催します。

2. 京機会総会

14:00～



3. さよなら吉田キャンパス「思い出の光景」 15:10～

100年を超える期間に亘り、皆様の青春時代の舞台となった吉田キャンパス・・・
京都大学・京機会の愛蔵写真や皆様から寄せられた秘蔵写真を、映像化しご覧いただきます。
上映後は、会場参加者全員での回顧座談会といたします。
当日、ご出席の皆様からの当時の秘蔵・爆笑エピソードなどのご発言をお待ちしております。

4. 特別講演会

16:20～

「2012年 機械遺産認定 ウォシュレット 開発物語 ～ 日本トイレの進化 ～」

中村 久志 氏 (S56) TOTO (株)

1980年初代に誕生したウォシュレットG。昭和のトイレ事情やテレビCM「おしりだって洗ってほしい」の反響など当時の世相も交え、最新の環境配慮の面など、2012年日本機械学会 機械遺産に認定されるまでのウォシュレットの技術・歴史を映像を交え分かりやすくお話しいたします。



5. 桂キャンパスへの誘い

17:35～

桂キャンパスならびに機械系教室の最新情報をご紹介します。

6. 懇親会

18:00～

会 場：京都大学百周年時計台記念館、国際交流ホール

会 費：一般会員 4,000円 会員ご家族は無料

学生会員 1,000円 (11/28までの事前入金の場合、500円の特別優待が決定！)

- **ご家族の参加も歓迎いたします。** ご家族参加の場合は、大会参加申込時に、その旨ご回答下さい。
- **自由な服装でお越しください。**
- **11月28日(水)までに、京機会HP (<http://www.keikikai.jp/>)からの参加申込をお願いします。**

京機会・京機学生会SMILE 学生と先輩との交流会のお知らせ

学生会員諸君！

学生会員の多数の参加をお待ちしています。
講演会以外の詳細情報は、京機会からのE-mailや
物理系校舎ロビーポスターにて確認下さい。

日 時：平成24年12月 8日(土)

交流会：10:30～15:00

懇親会までは、上記講演会でお楽しみ下さい！

懇親会：18:00～19:30

京機会秋季大会懇親会と合同開催です

11/28までの申込みなら懇親会費は500円！

会 場：京都大学百周年時計台記念館

国際交流ホール・記念館ホール



～ 学生と先輩との交流会とは ～

本交流会は、学生が社会における「現実」を知る教育活動の一環として、1999年より実施しております。本会は、京機会会員である先輩から、在学生に対し、大学における勉強と実社会との仕事の関係、仕事のやりがい・心構えなどを話していただいております。毎年、学生の関心も大変高く、勉学の動機づけや将来の方向付けにも少なからず寄与しております。毎年、約100社の企業に参加いただき、各社からも好評をいただいております。



野次馬話 第56話 「ひじき <漁>」

S43 卒 遠藤 照男

海の動物を獲るのなら漁であって、植物の収穫に漁ではないだろう、当然「獵」でもないから、ひじき「採り」か「刈り」しかないのではないかと思い込んでいた。

本件は私の認識が違っていた例である。結論は、漢和辞典等の用例に、<漁獲>：魚・貝・海草などをとること、またとれたもの、<漁業>：水産動植物を採取したり養殖したりする仕事、とあり、これに従わざるを得ないことが解った。

以下、言い訳である。

元来、<獵>：鳥獣を捕らえること、狩り、<漁>：魚・貝などをとること、であって、動物をとらえた成果が<収穫>：狩獵、釣りの獲物である、農作物及や海草のような植物に関しては、<収穫>を充てる、と思い込んでいた。

「紅葉狩」の<狩>にけものへんが使われているのは知っているが、実際に「狩りをする」訳ではなく、もみじを愛でることを強調するために使っているに過ぎない。

しかし、<漁（ぎょ）>には、①水中または海中より魚をとる、②あさる・探し求める・むさぼり求める、の意味があり、（りょう）は獵にあてて読んだ国音とある。遥かな時を経て、読みも用法も変化して来ている。

なお、[穫]は、イネを表す[禾]と、つかまえとることを表す「??(穫のつくりの方。フォントがないので済みません。編集者)」から成っていて、取り入れを表し、刈る、採る行為に繋がっている。また、「収穫」は「収獲」も網羅している。

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

また、原稿が切れてきました。投稿、お願い致します。

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考えるとなく、適当に書いてください。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

第一回京機会・ゴルフカフェ開催報告

1. 日時 2012年9月20日(木) 8:00-15:30
2. 場所 ロータリーゴルフクラブ(神戸市北区)
3. 参加者 12名(1965年卒業から1978年卒業)

京機会メンバーの幅広い年齢でのゴルフを通じた懇親を目的に第一回の京機会・ゴルフカフェを開催しました。今回は京機会メール配信からの募集で、幅広い年齢層(1965年卒業から1978年卒業)とゴルフの腕前(スコアは87から123まで)の方々に集まっていただき、ゴルフとおしゃべりをして楽しい時間を過ごしました。

夏の暑さが和らぎ、台風の間をぬっての平日開催は絶好のコンディションとなりました。ダブルペリア制の順位決めの結果、ベストスコア87の1969年卒業の高木亨さん、1973年卒業の高田修月さんを抑えて、1971年卒業の大田秀明さんが見事に優勝されました。今回はゴルフカフェということで終了後のパーティでは順位の下の方から近況やゴルフの結果などについてスピーチをしていただきました。ゴルフ上達のコツや健康法など、ためになるお話もたくさん出ました。

次回は組数を増やして、来春の開催を予定していますので奮ってのご参加をよろしくお願いします。

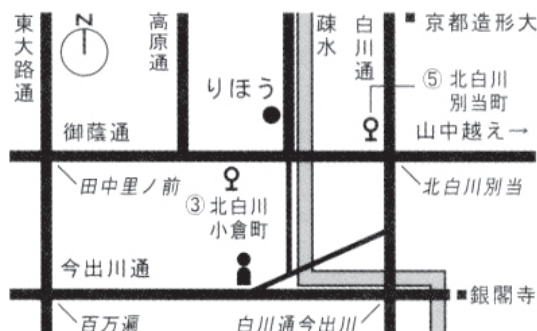
(幹事 S50卒 橋永雅夫)



ご案内

京機会事務局の中尾さんの個展です。
多くの方のご来場を期待しています。

CAFE & GALLERY りほう 〒606-8263
京都市左京区北白川東蔦町24-3
TEL. 075-721-2628



市バス/3系統「北白川小倉町」、5系統「北白川別当町」から徒歩数分



Garden 中尾美園 + 若林静香展

2012年10月27日(土)～11月4日(日) 水曜休廊
11:00-19:00 (最終日は17:00)

3回目を迎える二人の展覧会、今年は穏やかに流れる
疎水の辺に建つ、北白川のCafe & gallery りほうの
2階で開催します。

京都大学鉄道研究会写真展〔東京会場〕

鉄道のある情景

ー暮らしの中の鉄道を再発見する写真旅行ー



由利高原鉄道 鮎川ー黒沢 2012.1.8 遊佐 洋

ご挨拶 私たち鉄道を愛する者は、鉄道は生活に必須の装置であり、
生活の中であってこそ輝くものと考えています。ご来場の皆様に、日本
と世界の各所で、そして時の流れの中で、その場所その時での鉄道の
輝きを感じていただけることを願っております。

HCL

フォトギャラリー新宿御苑

<http://www.horiuchi-color.co.jp>

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-6-5
(株)堀内カラー フォトアートセンター
TEL 03-3226-9602

平 日 10:00～19:00 / 土曜日 10:00～17:00
最終日 10:00～15:00
休館日 日曜日・祝日



丸の内線 新宿御苑前駅 新宿門口出口より徒歩1分

1. 革新的エネルギー・環境戦略について

平成 24 年 第 10 回 国家戦略会議 平成 24 年 9 月 18 日

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/archive05_16.html

資料 1 革新的エネルギー・環境戦略（本文）

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120918/shiryo1.pdf>

資料 2 革新的エネルギー・環境戦略（概要）

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120918/shiryo2.pdf>

1-2 エネルギー・環境会議(第 14 回)

平成 24 年 9 月 14 日

http://www.npu.go.jp/policy/policy09/archive01_14.html#haifu

配布資料 革新的エネルギー・環境戦略（案）

<http://www.npu.go.jp/policy/policy09/pdf/20120914/shiryo.pdf>

1-3 エネルギー・環境会議(第 13 回)

平成 24 年 9 月 4 日

http://www.npu.go.jp/policy/policy09/archive01_13.html#haifu

1. 国民的議論に関する検証会合の検討結果について

2. エネルギー・環境戦略について

配布資料

資料 1-1 戦略策定に向けて～国民的議論が指し示すもの～

<http://www.npu.go.jp/policy/policy09/pdf/20120904/shiryo1-1.pdf>

資料 1-2 国民的議論に関する検証会合の検討結果について

<http://www.npu.go.jp/policy/policy09/pdf/20120904/shiryo1-2.pdf>

資料 2 エネルギー・環境戦略策定に当たっての検討事項について

<http://www.npu.go.jp/policy/policy09/pdf/20120904/shiryo2.pdf>

参考資料 討論型世論調査 調査報告書

http://www.npu.go.jp/policy/policy09/pdf/20120904/sanko_shiryo.pdf

2. 原発ゼロを目指すのなら 50%節電を国家目標とすべき

BPnet

大前研一の「産業突然死」時代の人生論

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20120904/321877/?ST=business&P=1>

今夏の電力危機は乗り切ることができたようだが、これは五輪開催により電力需要がピークシフトしたという特殊事情によるところが大きい。「原発ゼロ」という世論がこのまま変わらないのであれば、現在の 10%程度の節電では不十分で、50%節電くらいの国家目標を掲げる必要がある。

3. 無理を重ねた原発ゼロシナリオ

鳩山・福山の呪縛

WEDGE REPORT

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/2179?page=1>

震災から1年半。さまざまな報道や議論を通じ、原発ゼロのデメリットは今ではよく知られるようになった。その第一は、経済への悪影響である。なんとか電力需給の逼迫を免れたとしても、火力代替による輸入燃料費の増加や電力料金の上昇を通じ、経済にマイナスの影響を与えるのは避けられない。ところが国家戦略室は、6月29日に3つの選択肢を発表して以来、「どの選択肢でも経済はプラス成長する」という、“詭弁”を弄してきた。その背後には、ある議員の存在がある。

4. どうする！日本のエネルギー

21世紀政策研究所 研究主幹 澤昭裕 DIAMOND Online

「原子力20・火力60・再生可能エネルギー20」

政府は「国民的議論」で戦略策定から逃げるな

<http://diamond.jp/articles/-/24055>

6月末、政府の日本のエネルギー・環境会議は、日本が戦略的に目指す2030年の電源構成として3つのエネルギー選択肢を示した。この選択肢は、2030年の電力発電量に占める原子力の割合により、1.ゼロ、2.15%、3.20～25%とされている。しかし、この3つの選択肢には、いずれも矛盾・問題点が多い。まずは、この矛盾と問題点について整理したい。

5. エネルギーの選択肢が描く将来は？

WEDGE Infinity

欧米で色褪せたグリーン成長に賭ける日本

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/2155>

将来の原発比率を決める「エネルギー・環境に関する選択肢」についての議論が続いている。各地で開催された意見聴取会では、2030年に原発ゼロの選択肢を支持する参加者の比率が68%だったと報道されている。一方、経済団体、業界団体の意見書では原発比率低下による経済への影響を懸念する声が多く聞かれる。

6. 電力コストの上昇にどう向き合うか

日本総研 Business & Economic Review 2012年9月

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/ber/>

エネルギー選択が左右する日本の未来 (PDF:739.0KB)

<http://www.jri.co.jp/file/report/ber/pdf/6274.pdf>

LNG 火力の燃料調達コスト抑制に向けた課題 (PDF:1,932.0KB)

<http://www.jri.co.jp/file/report/ber/pdf/6275.pdf>

電力料金上昇の影響分析と対策（PDF：1,876.0KB）

<http://www.jri.co.jp/file/report/ber/pdf/6276.pdf>

タテとヨコの自由化で時代の先取りを（PDF：1,060.0KB）

<http://www.jri.co.jp/file/report/ber/pdf/6277.pdf>

住宅ネットワークモデルによる次世代電力システムの普及とスマートシティ市場における戦略的パッケージ商品の開発

<http://www.jri.co.jp/file/report/ber/pdf/6278.pdf>

2012～2013 年度見通し 低空飛行のなか牽引役探る関西経済

<http://www.jri.co.jp/report/ber/detail/6279/>

研究開発投資における「規模効果」に関する実証分析

－「シュンペーターの命題」は実際に成立しているか－

<http://www.jri.co.jp/report/ber/detail/6280/>

7. 再生可能エネルギー拡大の課題 - FIT を中心とした日独比較分析 -

富士通総研 2012 年 9 月

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/report/research/2012/report-396.html>

2000 年の FIT 導入以降、ドイツの再生可能エネルギーは拡大が続き、2012 年上期の電力に占める比率は 24 % に達した。原発の発電量は減少してきているが、電力は輸出超過を維持している。再生可能エネルギーの雇用は 37 万人、設備投資も 3 兆円を超えるまでになっている。他方で、2009 年からの太陽光の急拡大により家庭の負担が増している。ただし、日本の電気料金と比べると、税金を除いた実質ではそれでもドイツが 2 割近く安い。太陽光急増の結果、太陽光の発電コストが大幅に下がったこと、太陽光発電市場の自由化の道筋が見えたことなどは、正当に評価されるべきだろう。農村では、バイオガスによる熱電併給をベースに風力や太陽光を組み合わせた再生可能エネルギーの地域利用モデルが急増している。エネルギー消費者（consumer）が同時に発電事業者（producer）としてプロシューマー（prosumer）になることによって、新しい富が生み出されている。

再生可能エネルギーのマーケットリーダーとなったドイツでは新たな産業が勃興するとともに、洋上風力や集光型大規模太陽熱発電など、大規模プロジェクトも活発化してきており、エネルギー分野が地域の中小企業から大企業に至るまで、一大成長産業となっている。日本も FIT がスタートしたことにより、再生可能エネルギービジネスが本格化する。FIT を軌道に乗せるためにもっとも急がれるのは、再生可能エネルギー 各々の標準値・ベンチマークをつくり、理論・技術・ノウハウの共有化をはかることである。

再生可能エネルギー拡大の課題 - FIT を中心とした日独比較分析 -

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/downloads/report/research/2012/no396.pdf>

8. 再生可能エネルギー固定価格買取制度による再生可能エネルギーの普及および家計負担

富士通総研 2012年9月13日

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/column/opinion/201209/2012-9-2.html>

電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法が2011年8月26日に成立し、2012年7月から再生可能エネルギーで発電した電力を固定価格で固定期間購入する再生可能エネルギー固定価格買取制度（以下、FIT）が開始した。これで日本も再生可能エネルギー拡大に向けての第一歩を踏み出した。FITはすでに世界各国で導入されており、再生可能エネルギー普及において非常に有効であることが認められているが、その一方、買取価格は我々の電力価格に賦課金という形で加算されるため、電力価格上昇を引き起こす。すでにドイツではその賦課金は3.53 ユーロセント / Wh となっており、FITをより市場性のある制度へ見直すべきとの意見も出始めている

9. 天然ガスが新しいエネルギー政策を拓く

村木茂(東京ガス副社長)、伊藤元重(NIRA 理事長)

http://www.nira.or.jp/president/interview/entry/n120914_672.html

エネルギーを巡る様々な改革が進んでいる。ガスをはじめとする日本のエネルギー政策について、東京ガス株式会社代表取締役副社長の村木茂氏にお聞きした。

概要 http://www.nira.or.jp/pdf/taidan69_summary.pdf

全文 <http://www.nira.or.jp/pdf/taidan69.pdf>

- 国内ガスパイプラインのネットワーク化を急げ
- 産業のボーダーレス化が進み新しいビジネスが生まれる
- 天然ガスは総合エネルギー政策のグローバル化への鍵を握る

日本のエネルギーをどう選択するかという中で、低炭素化も考慮するなら天然ガスの利用を増やさざるを得ない。天然ガスを効率的に使うには、エネルギーインフラとしてのガス輸送パイプラインのネットワーク化が急務である。電力市場が自由化され、またLNG(液化天然ガス)がより効率的に利用されれば、産業のボーダーレス化を促し、新たなビジネスチャンスも生まれる。天然ガスの利用拡大はエネルギー政策のグローバル化と密接な繋がりをもつ。シェールガスの実用化など、新しい国際エネルギー環境もある。日本のエネルギー政策は、これらをしっかり踏まえた上で構築されなければならない。

《関連頁》「電力システム改革の課題 - 「配給」 から市場の活用へ - 」

<http://www.nira.or.jp/pdf/opinion7.pdf>

「再生可能エネルギーの将来性」

<http://www.nira.or.jp/pdf/review57.pdf>

第2回女性エンジニア交流会 ～機械系女子会ディナーミーティング in 名古屋～

Ladies' Association of JSME (LAJ) は、機械工学分野における女性研究者・技術者の活動を支援し、女性会員の増強を図ることを目的に、2004年10月に発足しました。

この度、機械系女子の方々が気軽に意見交換できる会を企画しました。ディナーを楽しみながら、本音トークに花を咲かせ、楽しいひと時を過ごしませんか？

今回はLAJ初の東海地区名古屋での開催となります。ぜひ、お越し下さい！

- 日時 : 2012年10月26日(金) 18:30～21:00
場所 : 名古屋駅周辺
目的 : 女性会員・技術者、技術者(研究者)を目指す女子学生の交流を図る
・人脈作り
・日頃の会社生活紹介
・キャリアデザイン意見交換
・女性技術者・研究者のリアルな声を聞く etc.

イベント内容 : ○(テーマ別)意見交換会

- 参加資格 : 機械系女子(女性エンジニア・研究者、女子学生)
(日本機械学会の会員以外の方も参加可能です。)
- 参加費 : 詳細は追ってLAJホームページより連絡いたします。
- 申し込み方法 : E-mail:yoko@mech.nagoya-u.ac.jpまで下記必要事項を記載の上、お申し込みください。
- 必要事項 : ○氏名、会社名、所属、E-mail
・閉会後の交流にご活用頂きたいため、参加者名簿を作成します。
非公開をご希望の方は、その旨をお知らせください。
○緊急連絡先・当日の緊急連絡用にのみ使用します
○応募動機・イベントに活用致します
- 募集期間 : 8月1日(水)～10月5日(金)
- 配信先 : 機械学会女性会員
問合せ先 : LAJ交流会幹事 山西陽子(名古屋大学)・岡部(デンソー)
E-mail:yoko@mech.nagoya-u.ac.jp
- 主催 : 機会学会女性部会(LAJ)
<http://www.jsme.or.jp/laj/>

